

公立保育園の行事の経過と取り組み

～「運動会」から『プレイデー』へ～

万国旗が飾られ、「天国と地獄」や「道化師のギャロップ」の曲が流れ、取り合いで大変な応援席にはシートが敷き詰められ、入場門と退場門がそびえ立ち、紅白の帽子をかぶった子どもたちと、ホイッスルを首から提げた保育士と。きちんと整列し、出番を待っている間もちゃんと座って、他のクラスの応援もして、かけっこがあって、目一杯頑張ったらメダルやおみやげがあって…。

「運動会」のイメージって、こんな感じでしょうか。大人たちはきっと、子どもの頃そんな運動会を経験してきて、色んな思い出と共に今でも胸に刻まれているのだと思います。

その昔は小金井市の公立保育園にも「だいうんどうかい」があって、万国旗が飾られ、入場行進から始まり…というイメージのものを行っていました。応援席にはロープが張られ、朝早く場所取りに来る家族もいました。幼児は何週間もかけて、競技やお遊戯、体操や応援合戦の練習をし、きちんと行進したり、まっすぐ並んだり、ホイッスルで揃って動いたりする練習も重要なことでした。普段の保育というより、見に来てくれる方たちの期待と声援に応えようという種目が多く、頑張って練習して成果をお見せしようと、4,5 歳合同のマスゲームや太鼓踊りなど、「だいうんどうかい」なので、とにかく毎日一生懸命練習しました。

年長クラスの子どもたちは、司会や用具係、応援団等もあって、競技の練習の他にさらに準備を重ねていました。入退場門を作り、進行や競技説明のセリフを覚え、年長らしさを前面に出して拍手を浴びていました。組体操の種目あり、リレーでははちまきを巻いて 1 人 2 周ずつ走っていたこともありました。

「だいうんどうかい」らしく、当時は乳児クラスも全員参加でした。いつもと違う光景に泣き出す 0 歳児の赤ちゃん。大勢の観衆の大歓声の中、自分のお母さん目指してヨーイドン！泣きじゃくって動けなかったり担任にしがみついたりしてる赤ちゃんを、ハイハイやよちよち歩きでゴールするまで盛大な拍手で応援します。泣いてても何でもいいからその可愛い姿を見たくって、赤ちゃんが出ているだけで、とにかく「カワイ〜〜〜！！」

1 才児クラスになると、お母さんにゴールするまで障害物が現れたり、ゴールしたあとお母さんと一緒に走ったり、さらにハードルが上ります。泣いてものけぞっても、そのしぐさがまた可愛いくて、大歓声。2 歳児クラスになると、親から離れて、音楽に合わせて踊ったり動物になりきったり。こういう場面が大好きな子もいて拍手を浴びたりするけど、ドキドキして怖くて、ずっと泣いて担任の抱っこから降りられない子もいました。

いつもと違う生活、広い場所、大きな音や声、お母さんがいるけど、離れて頑張らなきゃい

けない、不安と混乱と緊張と、大きいクラスならまだしも、乳児の子どもたちにとっては、運動会の意味も目標も分からない。でもとにかく運動会。応援に来てくれたみなさんに、きちんとしたものをお見せしましょう…という気持ちで取り組んできました。

しかし。

“これで本当にいいのかな…”“泣いている赤ちゃんは、どんな思いでいるんだろう…”安心した毎日の繰り返しや、散歩や外遊びを削ってでも、みんなで練習するのが1番大事なことなのかな…”“子どもにとってこの緊張感や特別感が必要なのかな…”“1人ひとりの子の気持ちややりたいことに、大人はちゃんと寄り添えているのかな…”“わたしたちは子どもの何を育てたくて、保育してるんだろう…”

行事って、一体何なんだろう。一体誰のためのものなんだろう。わたしたちのずっと前の先輩たちがそう思い始めたのが、今から30年以上も前のこと。そしてそこから毎年のように、プレイデーだけでなく色々な行事や活動を見直していきました。乳児期の安定した生活と愛着関係を築いていくことの重要性、1人ひとりの子が尊重され大切にされる保育の必要性をいつも基本にして。

行事は、毎日の保育の中のひとつの通過点。保護者のみなさんに喜んでもらえるようきちんと美しくお見せしたり、日々の保育とかけ離れた空気や緊張に耐えるために練習を重ねたりするのがねらいではありません。保育園には色んな子がいる。みんな違う1人ひとりが、育っていく場所。1人ひとりが大事にされて、だんだん仲間になって、一緒に遊んで、ケンカして、認め合って、分かり合って、そうやって、根っこから、1つひとつ、社会で生きていくための、自分の人生を生き抜くための、欠かせない力とスキルを手に入れていく。保育園時代は、まだその長い人生の、ほんの根っこだけど、これから色んな人と関わったり、難しい勉強をしたり、苦手なことを克服したり、夢に向かって努力したりしていくための、大事な土台を作っていく6年間。だから何でもないように見える毎日の暮らしがすごく大事。その毎日の中に、まさに乳児クラスはその根っこ作りが入っていて、信頼できる大人と一緒に過ごす中で、安心して個性を発揮しながら、愛されて認められてを繰り返し、自分の存在と力を揺るぎないものにしていきます。

そして、それを経て幼児クラスになると、少しずつ「いつもと違う」中でも自分の力を発揮したり、それに向けて仲間と準備をする中でお互いを認め合ったり、目標に向かって仲間と一緒に頑張ったり、やり遂げた達成感から自信と思いやりを手に入れたりできるようになっていくのです。

行事はその日だけの大イベントではないけれど、そうやって成長が見えたり自信がついたりするワンシーンになったりします。何をねらいとして取り組むか、その取り組みの中で子どもたちが自分の力で作り上げたり楽しんだり乗り越えたりしていけるように、保育士は年間を通

してプランを立て、行事が、1人ひとりのそのチャンスになっていくように長いスパンで考えていきます。

学校に行くと、長い時間座ったり、練習が集中して行われたり、競争や勝ち負けがあったりするのには、これじゃあ心配。と言う方もいるかもしれません。でも保育園は、学校に行くための練習の場ではなく、学校に行ってから沢山のことを吸収して自分を高めていけるように、その土台の根っこを確かなものにしていくところ。イベントだけでなく、毎日が、その子のステージです。

そしてやっぱり、保育園の真ん中は、『子ども！』
子どもたちがのびのびと過ごせて、自分でできることが増えて、友だちと一緒に力を発揮できて、大きくなっていく子どもたちのそういう姿を、保護者のみなさんと喜び合える、分かち合える保育園でありたいと思っています。

保育に関する基本的な理念や目標、今までの長い歴史の中で培ってきたものや、わたしたちが大事にしていることなど、公立5園の中では勉強会や情報交換、職員同士の異動などにより引き継がれていて、それほど大きな違いはありませんが、行事については内容やねらいが園ごとで異なるところがあります。どこまでが行事の括りなのか、どんな風に取り組むのか、行事の種類も多少違っていています。前年度の反省を踏まえたり、その年の子どもたちの興味や伸ばしたいところを考慮したりするので、“去年とやり方が違うのね”と感ずることもあるかもしれません。だからこそ、日々の保育について保護者のみなさまにもっと伝えていく必要があり、そこを基本とした様々な活動や1つひとつの行事のねらいや取り組みについて、理解していただけるよう、努力していかねばならないと思います。

プレイデーについては、各園特徴があるものの、どのようなことを大事にして「運動会」から移行してきたか5園で共通しているので、前回の「乳児と行事」の資料の補足として説明させていただきます。

プレイデーは、「親子で一緒に体を動かして楽しく遊ぼう！」というのがコンセプト。幼児クラス対象で、内容は「運動会」ではないので、普段の保育の活動で楽しんでいる体育遊びやわらべうた、ゲーム等が中心で、場所によっては自然の中で楽しむ親子ゲームや、きょうだいの小さい子や小学生が参加できる種目、年長クラスのリレーなどが加わります。

プレイデー、物足りないな～と思う方もいらっしゃると思いますが、親から離れて、普段仲間とこんな風に過ごしているんだな～。大好きな母さん父さんと一緒だとこんな笑顔になるんだな～。今日のこの姿は毎日の中の一場面、昨日より前と、明日から先と、ず～とつながってるんだな～。そんな思いで参加していただくと、我が子と、我が子と一緒に大きくなって子どもたちの成長に、きっと出会えると思いますよ。